
探し人

林檎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

探し人

【Nコード】

N2008B

【作者名】

林檎

【あらすじ】

詩、だと思いません。駅のホームで電車を待ってる時に思いつきました。

私は今日も立ち止まる。

人とはぐれた時には、下手にうろろしてはならない。じっとして、目を凝らして、人混みの中に『探し人』を見つけるのだ。それが一番いい。

こんな場所で動き回っていたら、探し人とすれ違ってしまいかもしれない。すれ違ったことに気付けないかもしれない。そうになると、もう二度と探し人の笑顔が見られなくなる。だから私は今日もここに立っている。

壁にもたれてみる。壁は冷たく背中を冷やす。冷静になれ、落ち着け、と言っているのかもしれない。

だけど落ち着いてみたら、どうしようもなくやるせなかった。人々が行き過ぎていくのだ。何百、何千、何万と。

誰にでも探し人が居るはずなのに。何故だ。何故彼らは探し人の存在を風化させてしまったんだ。何故あきらめてしまったんだ。

こんなところでじっとしている私が滑稽に見える程、人々はどうしても淡々と歩いていくのだ。探し人に会いたくはないのか。

探し人はきつと、あなたにとってかけがえのない存在だったはず。

母。父。祖母。祖父。親友。仲間。恩師。恋人。

きつと探し人は今もなお、あなた達を探しているのに。

この場所は悲しいところだ。

この場所は厳しく、耐えがたく険しいところだ。

この場所には欠片程の慈悲もない。倒れた人を笑い飛ばしては優越

感に浸る。弱い者を置いて罪悪感など生まれるはずもない。それに気付いてしまったのか、私の探し人はリタイアしてしまった。この場所から。

私達はリタイアしていない。何故だ。無知だからか。自己中心的だからか。投げやりか。無慈悲だからか。強いからともいうのか。まさか、こんな場所に希望を持っているともいうのか。

探し人はきつと私を探している。
歩けなくなった足で。触れられない手で。涙の出ない目で。ため息さえつけなくなった口で。携帯電話など、役に立つわけもない。

私の探し人は後悔しているだろうか。
悔やんでいるだろうか。リタイアしたことを。
そう思うと私は倒れ込みそうになる。足に力が入らなくなる。枯れたはずのものが溢れて熱くなる。

彼女の苦しみを、寂しさを、悲しさを、暗闇を全て知りたい。
知ってもう一度話したい。今度はもっと多くのことを。
知ってもう一度やり直したい。全てを。

だから私は今日もここに立っている。じっと。身動きせずに。
探し人が人混みに流され、ここに辿り着く日を夢見て。人混みの中に探し人の姿を見つける日を心待ちにして。
私がここに居ないと、きつと誰も気付いてはやれないから。

私にもっと力があれば。

ふがない私は、ここに居る何百何千の人々に、探し人のことを伝えることすらできない。

探し人がどれ程美しい人間だったかを。

誰も耳を傾けてはくれないから。

もう長いこと、探し人を待っている。

私は探し人のことを忘れてしまっそうで怖い。この場所に居る、多くの人々と同じになってしまっそうで、怖い。

自分を奮い立たせようと探し人の写真を眺めてみるのだけど、いつしかそれもおぼろげで現実味をなくし始める。

私は泣いた。

この場所で。大きな声で。

何故だ。何故現れないのだ。

私は会いたい。あなたに。

もう一度会いたい。だけど探し人が私を本当に必要としていた時、私は会ってやれなかった。側に居てやれなかった。

こんな私があるのに会いたいと、今更虫が良すぎますか？

ただどあなたの笑顔が見たいのです。

何故私を残してリタイアしてしまったのですか？

私達は、痛いほど狂おしいほどに分かり合えたはず。

この場所に嫌気がさしたのは、私も同じだから。

ああ。あなたに会いたいです。

あなたを抱き締めてあげたいのです。

私は今日もこの場所に立ち、消えた探し人を待っている。

人々は今日も行き過ぎていく。
この場所で。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2008b/>

探し人

2010年10月11日14時45分発行